

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

去る4月17日に、全国の小学校6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が行われました。子供たちの学力や学習状況の現状を把握・分析し、成果と課題を検証することで、その後の指導の充実や学習改善に役立てるためのものです。本校の調査結果と分析がまとまりましたので、概要をお知らせいたします。なおこの調査で測定できるのは、学力の特定の一側面であることを御承知おきください。

(1) 学力に関する調査【国語・算数・理科】

国語・算数・理科の三教科とも、全国、静岡県、伊豆の国市平均正答率を上回りました。



【国語】

よくできた（正答率が高かった）内容	努力を必要とする（正答率が低かった）内容
○話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうか読み取るなど。	●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題。

基本的な知識はしっかりと身に付いています。読書好きな児童が多いことも、語彙力や表現力の基礎を支えていると考えられます。一方、目的や必要に応じて必要な情報を結び付けて読み取る力に課題があります。

学校では、国語だけでなくほかの教科でも、図表と関連する文章を目的と必要に応じて結び付けながら読み取る学習の機会を増やします。また、グループで意見交換をし、多様な考えに触れた上で、自分の考えをまとめる機会を設けます。

【算数】

よくできた（正答率が高かった）内容	努力を必要とする（正答率が低かった）内容
○計算や図形の基本的な理解。 ○グラフの特徴を理解し、割合を読み取る。	●文章題や図形の問題で、答えを導き出すまでの思考の過程を言葉や式で説明する問題。

数と計算領域の学習は正答率が高い傾向が見られました。グラフや図から情報の読み取りができました。一方で、言葉や図を用いて自分の考えや、考えた根拠を記述することに課題があります。

学校では、授業の中で、問題の解き方を発表したり、友だちに教え合ったりする時間を確保して、「なぜそうなるのか」を言葉で説明する活動を重視します。これにより、論理的な思考力を育てていきます。また、ノートとタブレット端末のよさを生かして使い分けをすることで、子供たちが考えを深めたり表現力を伸ばしたりすることができるようにしていきたいと考えています。

【理科】

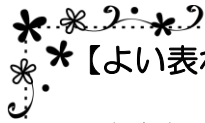
よくできた（正答率が高かった）内容	努力を必要とする（正答率が低かった）内容
○「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の領域の基本的な知識・理解。	●思考の過程を言葉で説明する、「思考、判断、表現」を問う問題。

どの領域も正答率が高い傾向が見られました。特に「地球」に関する分野の正答率が特に高く、地球科学分野への関心と理解が深まっています。一方で観察や実験の結果から、科学的な根拠に基づき考察をまとめ、記述する力に課題が見られます。

学校では、実験後の考察を重視し、結果を「なぜそうなったのか」という視点から多角的に考え、文章にまとめる練習を重ねます。

(2) 学習状況に関する調査【児童質問紙】

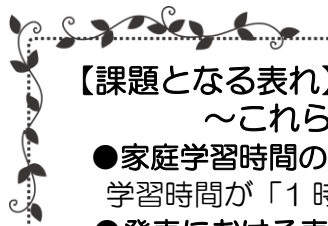
6年生が実施した全国学力・学習状況調査の児童質問紙の結果についてご報告いたします。
この結果は、お子さまたちの学校生活や学習に対する意識を映し出す貴重なデータです。今回の分析をもとに、今後の学校教育をさらに充実させてまいります。



＊【よい表れ】本校の児童たちは、多くの面で全国や静岡県 averages を上回る素晴らしい結果を出しています。

- 先生との信頼関係 先生が自分の良いところを認めてくれていると感じている児童が多く、自己肯定感が高いことがうかがえます。
- 将来への希望 将来の夢や目標をもっている児童の割合が全国平均より高く、前向きな姿勢が見られます。
- 学校生活の充実 授業や学校生活が楽しいと感じている児童が多く、学校全体が活気にあふれていることが分かります。
- 読書意欲 読書が好きな児童の割合が高く、これが語彙力や読解力の基礎を培っています。
- 主体的・協同的な学び 授業で分からないことを先生や友達と話し合っている児童が多く、主体的に学習に取り組む姿勢が定着しています。
- 理科への関心 理科が好きだと答える児童が多く、観察や実験に積極的に取り組んでいます。
- 社会貢献への意識 将来、人の役に立ちたいと考えている児童が多く、社会性を育む上でも良い傾向が見られます。

- ◎ 自己肯定感と学習意欲 先生との良好な関係が、学習意欲や積極性を引き出す土台となっています。
- ◎ 読書習慣と国語力 読書への高い関心が、国語の基礎学力（語彙や文法）の定着に良い影響を与えています。
- ◎ 主体的学びの定着： 授業で分からないことを自ら解決しようとする姿勢が、理科の探究的な学習における高評価にも繋がっています。



【課題となる表れ】今後の学力向上に向けて特に力を入れるべき課題。
～これらの課題は、教科調査の結果とも関連しています。～



- 家庭学習時間の不足 「家で1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか」に対し、学習時間が「1時間未満」と答えた児童の割合が全国・県平均を上回っています。
- 発表における表現の工夫 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」に対し、「はい」と答えた児童の割合が全国・県平均を下回っています。
- ICTを活用した表現活動の不足 「自分でPC・タブレットなどのICTを使って、情報を集め、発表の資料を作成することができますか」に対し、「はい」と答えた児童の割合が全国・県平均を下回っています。

☆ 課題に対する改善策 ☆

☆家庭学習の習慣化: 家庭での学習時間を充実させるために、短時間でも毎日机に向かう時間を設けていただくよう保護者の皆様にも、御協力をお願いします。また、読んだ本や身の回りや社会でのできごとについて子供と話す機会を作り、話に耳を傾けて思考力や表現力を育てていきましょう。

☆授業における伝え方の工夫 授業で「どうしてその答えになったのか」を説明する時間を確保し、言葉や図、表を使って自分の考えを整理する練習を重ねていきます。これにより、論理的に考える力を養います。また、発表の組み立て（話の順序）や、分かりやすい言葉遣いなど、表現方法を工夫するポイントを具体的に指導します。他の児童の発表の良い点を見つけ、共有する活動も取り入れます。

☆ICTを手段とする学習の推進: ICTを単なる情報収集だけでなく、自分の考えを分かりやすく表現するためのツールとして活用する機会を増やします。例えば、調べたことをタブレットで資料にまとめ、発表する活動を積極的に取り入れていきます。

今後も、御家庭と地域、学校とが連携して、子供たちを育てていきたいと思っております。御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

担当：教務 佐藤